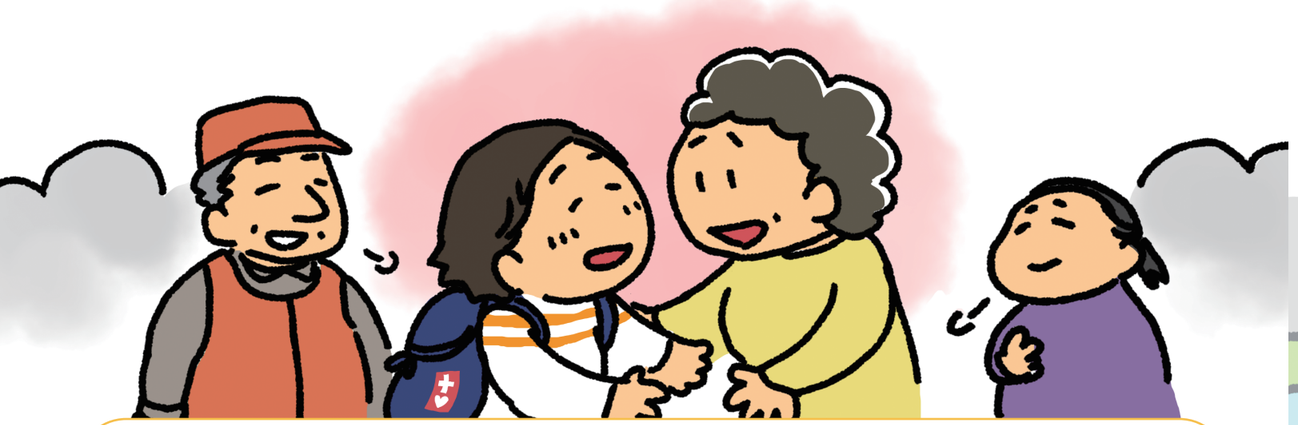

このきっかけが踏み出す勇気に

NPO 法人 ほっとハウス 地域活動支援センター
理事長　松本　千鶴

東日本大震災のとき、ほっとハウスからバスで帰ったＹさんとＯさんが乗り換えの為徳島駅で降りましたが、地震の影響でバスがストップしてしまいました。家族に連絡が付かず私に電話がありました。私はＹさんに「今から迎えに行くから動かないでそこにいて下さい。」と伝え、急いで車で向かいました。Ｙさんは約束通り公衆電話の前で待っていてくれました。小さな体が寒さと不安で震えていました。Ｏさんは？と聞くと、他の作業所に通う友人と一緒に歩いて帰ったというのです。Ｙさんを家まで送り、Ｏさんの帰路を辿りました。駅から 40 分ほど歩いた所で道路脇に座り込んでいるのを見つけました。無事でいてくれたことに安堵し、寄り添ってくれた友人に感謝の気持ちが込み上げて来ました。恐ろしかっただろうな、こんな時どうしたらいいのだろう。親も心配でたまらなかっただろう。

あれから10年、ずっと願っていた知的障がい者の防災準備事業に、徳島市との協働事業として3年計画で取り組めることになったのです。危機管理課の方の東北での体験談を聞き、命の大切さを学び専門家の助言を受け、ワークショップを通じて何が不安で何が必要なのか、何を準備すれば良いのかを洗い出しました。防災リュックには、本人が持っていて安心する物を入れました。布で作った簡易更衣室は着替えに便利なのが分かりました。自分の要望を書いたコミュニケーションカードを作り、防災訓練でカードを使ってお母さんを探すロールプレイも行いました。自分から言葉を発するのが苦手な人も勇気を振り絞ってカードを見せることが出来ました。簡易トイレの経験は大変貴重でした。地元の婦人会の方達がかけつけ、カレーの炊き出しをして見守って下さいました。いつ起こるかわからない地震や災害があった場合、地域で暮らす知的障がい者やその家族が少しでもストレスや不安を軽減できるような街づくりを目指してきました。

社会全体が障がい者に対しての思いやりの意識を持ち、皆で支え合う優しい街になることを願います。

避難が必要となる災害が発生した場合の支援のお願い

徳島市 危機管理局

避難が必要となる災害が発生した場合には、障がいの有無に関わらず全ての人が安全に避難し、また、避難後は、避難所内において、普段の生活とは全く異なる状況下で、全ての方が安全・安心かつ出来る限り快適な避難所生活を送ることと、そのための支援を受けられることが望まれます。本書により、障がいのある人やその家族にとって、「避難が必要となる災害が発生したときに、どのような支援が必要とされているか」、また、「平素から、地域住民の皆さまと、どのような繋がり・交流が必要とされているか」を知っていただき、支援を必要とされている方々への、温かく力強いご支援・ご協力をお願いいたします。

発 行：NPO法人（特定非営利活動法人）ほっとハウス
Ｈ　Ｐ ：http://npo-hothouse.com/shisetsu/index.html
住　所：〒770-0047 徳島市名東町3丁目257-1 **TEL/FAX：**088-633-8121
定休日：日曜・祝日・水曜日　**営業時間：**10:00 ～ 16:00
※このパンフレットは『徳島市協働による新たなまちづくり事業』の補助金により制作しました

事業支援
徳島市 危機管理局 危機管理課 防災対策課
徳島市 市民環境部 市民協働課
徳島大学 ファシリテーター 玉有 朋子
パンフレット制作支援
徳島文理大学 准教授 山越 明

みんなで守って！
災害時の知的障がい者

知的障がいがあり、突然のことにどうして良いかわからないＡさんは周りの方々の手助けを必要としています。

災害時にはみなさまの助けが必要です。
Ａさんをたすけてください！

災害時に知的障がい者にはどんな助けが必要？

詳しくは次ページへ

このパンフレットは、知的障がい者支援施設 ＮＰＯ法人 ほっとハウスが
災害時、地域のみなさんに知的障がい者に対して手助けをしてもらいたいと考え、制作しました。

NPO 法人 ほっとハウスとは

徳島市にある、障がい者に対し働く場を提供し、生活訓練を通し社会に適応する力を養う場所です。
音楽活動や文化・芸術活動を通じて広く社会と交流することで、障がい者に対する誤解や偏見をなくし、正しい理解を呼びかけ、やさしい福祉社会の実現に寄与することを目的としています。現在、12人の知的障がいを持つ人が通っています。